



配布した「西表島の植物誌」を手に喜ぶ児童ら



② 浦内川及び仲間川流域のマンングロープ林の隆替状況
③ 船浦ニッパヤシ植物



④ ヒナイ川周辺国有林への観光客入り込み状況
⑤ 移入種ギンネムの抑制と海岸林の再生試験
⑥ 移入種ソウシジュの繁殖動向
⑦ 漂流・漂着ゴミの海岸林への影響
⑧ 仲間川保全利用協定締結事業者が実施するモニタリング調査の支援
⑨ 西表島の森林を適切に利用していただくためのガイド講習会の開催



上：「サキシマスオウノキ」を訪れる観光客
中：仲間川のモニタリング支援をする職員
下：ニッパヤシ植物群落保護林で調査する職員

西表島の自然を守るために 西表森林環境保全ふれあいセンターの取組

5月25日、仲間川支流の北船付川(にしふなつきがわ)から西表亜熱帯樹木展示林に至るマンングロープ林に設置した木道周辺のモニタリング調査を行いました。

今回の調査ではオヒルギの生立木189本、稚樹65本が確認され、昨年11月の調査と比較すると、生立木で1本、稚樹で65本の減少が見られました。

西表森林環境保全ふれあいセンターでは、このほか、自然再生活動の一環として次のようなモニタリング調査などの取り組みを定期的に行っています。

今年度早々には、完成した「西表島の植物誌」を森林環境教育の教材として竹富町内の小・中学校に配布したところ、各方面から多くの問い合わせが寄せられました。

これらのモニタリング調査により得られた貴重なデータは、整理し「報告書」あるいは「年報」等に取りまとめホームページなどで公表しています。(担当：西表森林環境保全ふれあいセンター)



北薩森林管理署

流域管理調整官

山下 恵明

紫尾山（しびさん）は、鹿児島県の出水市と薩摩郡さつま町に跨る紫尾山地の山で、北薩地方（旧薩摩国北部）随一の標高（1067㍎）を誇る山です。地形は中腹から山頂にかけて急峻で、北薩地方を川内川水系と米ノ津川水系とに大きく二分する扇形の雄大な山谷を呈し、



さつま町側からの紫尾山山頂

中でも、紫尾山の植生を代表するブナ林は、薩摩半島における南限とされ、標高千㍎以上に自生し、冷温帯のブナが暖帯林のカシ、シイなどと共存する貴重な生態系を形成しています。このため林野庁では、紫尾山山頂一帯を「林木遺伝資源保存林」に指定し、こうした希少樹種な

【登山案内】は、国道504号線の堀切峠から車道が整備されているほか、さつま町平川登山道（片道1時間30分）があります。



落差70mの千尋之滝

『紫尾山』標高1067㍎
北薩地域シンボルの山

エテなどが自生する針広混交林の天然林となっています。

は登山案内のとおり車で簡単に登れて、この貴重なブナや豊かな森林生態を間近に観察することが出来ます。

さつま町平川登山道の林道終点から登山道を歩いて10分の所にあります。この滝は、落差が約70㍎もあり、断崖絶壁からの水流は大迫力です。

紫尾山山頂まで

千尋之滝は、紫尾山東部急斜面の中腹で、



南限とされるブナ林＝紫尾山

山頂からは県内一円はおろか、好天の日には天草の島々や、遠くは普賢岳、霧島連山、さらには屋久島までをも一望できる大パノラマを目にすることができ、地域のシンボルの山として人々から親しまれています。

どの遺伝資源の保存を図ることとし、その適切な保全管理に努めています。

【近くの見所】上宮神社は、山頂付近の林内にあり、空尊上人によって「上宮権現」が創建された謂われがあり、4月には地元平岩集落の人々により祭が開催されています。

ボランティアでシカ対策

【宮崎北部森林管理署】五ヶ瀬町～椎葉村に跨る白岩山岩峰周辺および向坂山登山道沿い（五ヶ瀬町）の国有林内において、当署職員のほか、霧立越の歴史と自然を考える会、大國見会、五ヶ瀬町や椎葉村役場関係者ら約20人のボランティア参加の下、希少植物をシカの食害から守るため、設置しているシカ防止ネットの補強や網の補修作業に汗を流しました。当日は、霧立越の歴史と自然を守る会の呼びかけで福岡や熊本県からの参加者もあり、急な斜面の中、足元に注意しながら、シカや崩石などで破れた網の補修作業に一生懸命取り組みました。



シカ防止ネット補修をする参加者＝宮崎北部

治山事業現場で地元説明会

【鹿児島森林管理署】鹿児島市桜島において桜島地区民有林直轄治山事業の地元説明会を行いました。説明会には、各地元自治公民館長をはじめ鹿児島市関係者など35人が参加。署からは、これまでの実績や現況、当年度の実施計画などをパワーポイントにより説明しました。その後、各施工地を視察。公民館長からは、「最近は大変な大雨災害もなくなり感謝しています。このような素晴らしい施設が整備されていることを、地元の子供たちにも見せたい」などの感想が聞かれ、先人たちの苦労が地元の方々への安心へ繋がっているのだと感嘆した一日となりました。



事業施行地を視察する参加者＝鹿児島

した。「地元からの見学させたことへの要望」については、積極的に応じていることとしています。

梅雨期を前に林道整備

【宮崎南部森林管理署】熊本林業土木協会宮崎支部によるボランティア活動が行われ、支部会員並びに当署職員ら30人が参加し、管内の林道4路線の整備を行いました。同協会からは重機の協力があり、普段は整備が困難な横断溝などを中心に作業を実施。各路線とも見違えるようにきれいになりました。これから梅雨時期を迎え、林道の維持管理に大いに役立つものと期待しています。



横断溝の整備をする参加者＝宮崎南部

鹿防護柵で遺伝子バンクを

今、霧立山地は、鹿の異常繁殖による食害が急速に進み、林床を覆う草本類やスズタケが枯渇してきました。食害が進んだ地域ではブナやミズナラ等の枯死倒木が増えています。地表面を覆っていた下層植物が無くなり乾燥化が原因と思われる状態が増えた地表は、保水力が

ないので雨が降ると一気に雨水は流下して、下流域の災害を誘発する恐れがあります。近年は、好天が少し続くと河川の流量が著しく減少し、雨となれば河川の氾濫が多発、その後の濁りが長く続くようになりました。多くの下層植物が枯渇すると、それを食草とする昆虫もいなくなるので虫媒花は受粉ができないのでないかと心配です。スズタケが消えた林

待っています。

【都城支署】遅霧国有林において、三股町立三股西小学校4年生135人を対象に「樹木調べ」「体験林業」「自然探検」の三つのプログラムで森林教室を行いました。「樹木調べ」では、広葉樹の樹皮や葉などの特徴を観察。「体験林業」では保育間伐と丸太切りを体験。「自然探検」では、川の中のカニを採るなどの体験をしました。この森林教室は、「総合的な学習」の一環として学校からの要請で行ったもので、今年で7年目となります。今後もこのような活動に積極的に協力を行い、森林の役割・自然との関わりについて知識や理解を深めてもらえる



霧立越の歴史と自然を考える会

会長 秋本 治さん

地では笹の葉で営巣するウグイスの鳴き声が聞こえなくなりました。国有林では、部分的に植生の回復を図ろうと鹿防護ネットを設置され、その補修等には休日返上のボランティアで作業に当たられるなどを拝見するにつけありがたく思うこの

鹿は下層植物が無くなったところでは減少しています。将来、脊梁山地の生態系回復に遺伝子のシードバンクが大きな力を発揮するものと思われま



体験林業の丸太きりへ挑戦＝都城支署

梅雨期を前に防災点検

【長崎森林管理署】災害が発生しやすい梅雨期を前に、島原市において防災対策現地視察を行いました。これは情報の共有と防災意識の高揚を図るために行われたもの。島原市をはじめ、国土交通省、島原振興局、警察署、消防署など8機関から60人が参加。防災本部長の横田市長が「梅雨や台風シーズンを迎えるにあたり、関係機関で十分に現地の確認をお願いしたい」とあいさつ。過去に大洪水が発生した眉山、普賢岳噴火で火砕流が発生した水無川おしが谷・千本木地区などを視察しました。当署からは眉山の治山工事の概要および上流域の溪間工、山腹



現地視察を行う各機関の参加者＝長崎

工の重要性について説明を行いました。

50人鶴見岳を満喫

【大分西部森林管理署】近鉄・別府ロープウェイと共催し「鶴見岳ミヤマキリシマ観賞登山会」を開きました。当日は一般公募した50人の参加者が山頂広場に集合。当署からはスタッフとして17人が参加。4班に分かれた参加者を鶴見岳山頂から鞍ヶ戸を経由し、鶴見岳西登山口までの約6キロのコースを植物観察をしながら案内しました。今年は、春先からの天候不順のためか、ミヤマキリシマの開花が遅く頂上付近では3部咲き程度でした。

少し残念でしたが、心配された天気も快晴となり、参加者からは「また参加したい」との声が聞かれるなど、新緑の鶴見岳を満喫できた1日となりました。



ミヤマキリシマを満喫する参加者＝大分西部

間伐展示林を研修生視察

【大分森林管理署】由布市の星岳国有林に設定している間伐展示林を大分県森林整備センターの林業作業士育成研修生27人が訪れました。当展示林は、当署と大分県中部流域林業活性化センターが連携し、間伐に関する知識普及のため平成17年に設定したものです。約12ヘクタールの展示林は、47、61年生のスギ・ヒノキの人工林を列状、放射線状、帯状、定性、鋸谷式など8つの方式で間伐木を選木しています。当研修は、間伐技術の習得を目的に平成17年から実施されており、今回の研修生からは、「各

種の選木方法による間伐林を一度に見ることができ、大変参考になりました」との声が寄せられ大好評でした。



展示林の概況説明を受ける研修生＝大分



田崎 武夫さん

いよいよ初夏の季節がやってまいります。我が家では30年にわたって、春には家の入口に

ある古巣に子育てに来るツバメが、今年は1羽だけでどうしても相棒が見つからないようです。周囲の自然を見ても雀、ツバメなどなど小鳥の姿が見えないのです。あれほど多かったカラスの群れさえも少なくなっているように思われません。

森林の大切さを伝えたい

また、アゲハ蝶とかモンシロ蝶、トンボなどの昆虫も少なくなってきたような気がしており、環境異変の影響としか考えられません。このような環境の変化

は、日頃から稲達が活動している森林環境保護活動の大切さや、森林・川・海など自然界がもたらす恩恵も忘れてはならない時期に来たように思われます。このため、このような環境を

考えているところです。このような自然環境を作るためには森林の役割が大切であり、また、多くの人達の協力と自然に対する認識が必要であると考えているところです。

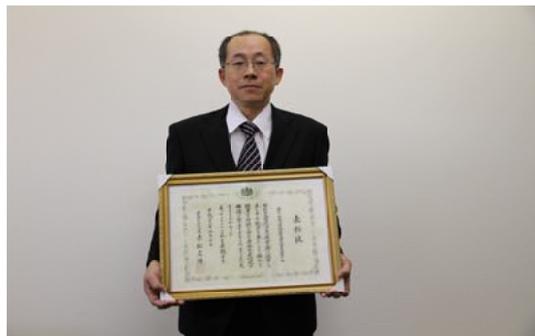
今後は、モニター活動を活かし、数多くの人々と交流を持ちながら森林の大切さを呼びかけていきたいと思っています。

(長崎県大村市在住)

『岩手・宮城内陸地震災害復旧支援チーム』に農林水産大臣賞

6月4日、当局治山課の農林水産技官 古庄誠司さんに優良職員等表彰の伝達が行われました。

これは平成20年6月14日、東北地方を襲った震度6強の激震により、大規模な地滑りや土石流、山地崩壊などが発生。古庄さんはこの災害復旧支援業務に九州森林管理局代表として平成21年2月1日から同11月30日の10カ月の間、「岩手・宮城内陸地震災害復旧支援チーム」の一員として従事されました。



優良職員表彰を受けた農林水産技官 古庄さん

森林保護員が始動

【都城支署】高山植物の盗採防止、登山者へのマナーの啓発や自然保護の呼びかけを行うグリーン・サポーター・スタッフ（森林保護員）の任命と出発式をえびの市のえびのエコミュージアムセンターで行いました。追口親支署長から任命書が交付されると4人のグリーン・サポーター・スタッフの方々は、早速巡視に出発しました。これから本格的な行楽シーズンに向けて霧島山系の自然保護などに森林保護員の活躍が期待されます。出発式の模様は新聞にも掲載され、風光明媚で多くの登山者に愛される名山が多数あり、各地の山開きにあわせて本格的な登山シーズンを迎えております。先日、大分県山岳遭難対策協議会に出席しましたが、昨シ



森林保護員へ任命書交付＝都城支署

森林の保護の重要性をPRすることができました。

中年突入

森林春秋への投稿については、これまで「脳内サプリ」、「リフレッシュでGO」、「再々チャレンジ」と題してストレス解消策などをお話しましたが、今回は現場第一線におけるシェイプアップに向けた真剣な取り組みの心意気を紹介します。

当署管内は、「くじゅう連山」、「由布・鶴見岳」、「釈迦ヶ岳」

ズンの遭難者はデータ収集以降最多の49人を数え、中高年者や体力不足・つまづきによるものが多く見られるとことです。私といえは、12年振りの現場業務で既に50歳代に突入してお

り、体型的にも「飲ミニケーション」の御旗の下で水泳部で鍛えた逆三角形もしっかり「正三角形」を保持するとともに、血糖値も高位を堅持するなど何ともぶざまな有様です。

このため、医師のご指導の下で現状を認識しつつ、メタボ脱却、体力維持、酸欠状態の頭に活を入れる早朝ウォーキングに取り組み、皆さまとともに楽しく良い仕事をしたと思えますのでよろしくお願いします。

(大分西部森林管理署長 森 勇二)

『千年の森林』で自然観察

【熊本南部森林管理署】人吉市大畑国有林の「千年の森林」において、人吉・球磨自然観察会による「千年の森林周辺での植物観察」を開きました。当日は、長年にわたり国有林野事業推進に貢献したとして九州森林管理局長から感謝状を授与された環境省希少野生動物種保存推進員の乙益正隆氏を講師に迎え、総勢約50人が参加。参加者は、多種多様な樹木が存在する林内を散策しながら講師の説明にメモを取るなど、熱心に観察をしていました。同会は、楽しく学べる会として大好評で、今後ともさらに会の充実に努めることとしています。



乙益さんの説明に聞き入る参加者＝熊本南部

家族ら77人林業体験

【大分森林管理署】由布市立石国有林の分収造林「平和と環境の森」において、契約者の「食とみどりの・水を守る大分県



間伐調査を行う参加者＝大分

労農市民会議」の家族ら77人が保育間伐やベンチ造りに取り組みました。はじめに、当署職員が森林の役割や環境問題、間伐の目的や方法について説明。その後、大人は8班に分かれ、設定した100㎡の標準地内で輪尺と測桿を用いて材積を算出し、二酸化炭素の吸収量を試算。その後、選木した間伐木を鋸で伐倒し、ベンチ造りにチャレンジしました。一方、子供たちは、森林の役割についての紙芝居に真剣な表情で聞き入ったり、自分の名前を記入した樹名板を設

置したりと一生懸命取り組みました。参加者からは「初めて体験することばかりで、大変有意義な一日となりました」と喜びの声が多く寄せられ、たのしい体験林業となりました。

シカ被害対策を検討

【屋久島森林管理署】近年、屋久島ではヤクシカの生息数が増加したことにより、農作物や野生植物などへの被害が懸念されています。当署では、地域と連携したシカ被害対策の体制つ

くりを推進していくため、関係機関による「シカ対策ワーキンググループ」を立ち上げ、意見交換を行いました。意見交換では、伐採跡地でのシカ誘引方法や罾の設置個所などについて意見交換を行うとともに敷ネットや枝条によるシカ防除手法、植生の回復状況の検証も行うこととしました。今後、さらに関係機関と連携したシカ対策の体制を構築するとともに、伐採跡地を利用した効率的かつ効果的なシカ捕獲方法を検討していくこ



33 ウラジロノキ (バラ科)

ウラジロノキは北海道と沖縄を除く日本全域に分布している落葉高木であるが、熊本県植物誌で「稍稀」、大分県植物誌でも「やや普通」と、共に3段階目にランクされ、どこでも普通に観察できる樹木ではない。生育地はヤブではなく、切り開かれた明るい、尾根状の箇所でもよく観察される。

き方は、長枝（長く伸びた枝）は互生しており、短枝は通常3枚束生している。葉の付き方で互生と束生が同時に観察できるも面白い。



3以上の3本立ちがある。ぜひ観察下さい。



意見交換を行うメンバー＝屋久島

ととしています。



これから、梅雨や台風による災害の多発期となる。九州の国有林ではここ数年、激甚と呼ばれるような自然災害は発生していない。が、油断は禁物。特にこれからは、危機管理意識を高めなければならぬ▼今、国内はいろんなことで混乱の真っ只中。そのひとつに四月二十日に宮崎県で発生が確認された「口蹄疫」。その後被害は拡大し、宮崎県はもとより農水省をはじめ国を挙げた対策を行うも、五月十八日、宮崎県は非常事態宣言を発する事態となった▼畜産農家にとってはこれまで経験したことのない、ある意味未曾有の大災害。被害農家の心中、察するに余りある。肉体的にも精神的にも極限状態であろう。同じ第一次産業に関わる者として他人事とは思えない▼被害が大きい地域に近い森林管理署では、職員が交代で早朝からの防疫作業に従事している。これから暑さが厳しくなる中、防護衣を着用しての消毒作業には頭が下がる。健康には十分留意していただきたい▼「口蹄疫」の一刻も早い終息を、心から願わずにはられない。(義)